

# 第13回癌・炎症と抗酸化研究会(CIA 研究会)

ランチョンセミナー

## 最適な抗がん剤脱毛治療を探る

**開催日時** 2023年11月25日(土) 12:30~13:20

**会場** ホルトホール大分  
3F 大会議室

### 司会

大分大学医学部長  
大分大学医学部  
消化器・小児外科学講座 教授

**猪股 雅史** 先生

### 演者①

## 毛包周囲環境から考える抗がん剤脱毛治療戦略

大分大学医学部  
先端がん毛髪医療開発講座 [アデランス]  
准教授

**河野 洋平** 先生

### 演者②

## 乳癌治療と脱毛対策

東京女子医科大学  
外科学講座  
乳腺外科学分野 教授・基幹分野長

**明石 定子** 先生





演者①

大分大学医学部  
先端がん毛髪医療開発講座[アデランス]  
准教授

河野 洋平先生

## 毛包周囲環境から考える抗がん剤脱毛治療戦略

がんに罹患し治療を受けている患者数は現在163万人と報告され、その治療成績向上に伴い、がん経験者数も増加している。厚生労働省第4期がん対策推進基本計画においてもがん患者・経験者のQOL向上に向けた取り組みが求められており、治療に伴う脱毛など外見変化に対するサポートの重要性はますます高まっている。

我々は頭皮における酸化ストレスが関与する抗がん剤脱毛病態に対する抗酸化物質 $\alpha$ リポ酸誘導体の有効性を示してきた。臨床研究では多機関共同研究による乳がん患者100名を対象として、術後化学療法期間中に $\alpha$ リポ酸誘導体1%含有ローションの頭皮塗布を行った。化学療法後3ヶ月においてGrade2(>50%脱毛)症例割合は20%未満であり、脱毛後の回復を促進する可能性を示した。リバーストランスレーショナル研究として、 $\alpha$ リポ酸誘導体の効果について現在最も臨床応用されている頭皮冷却療法との作用の差異、併用効果の可能性など基礎研究にて検討した。シクロフォスファミド誘発脱毛マウスモデルの皮膚毛包周囲環境を観察し、血管内皮細胞のアポトーシス誘導と血管透過性が亢進する病態の発生を明らかにしたうえ、皮膚冷却および $\alpha$ リポ酸誘導体経皮投与は、いずれも抗がん剤誘発血管透過性亢進を抑制することを示した。その機序として、 $\alpha$ リポ酸誘導体は血管内皮細胞アポトーシス誘導を軽減することを報告した。研究成果に基づいて開発上市された $\alpha$ リポ酸誘導体配合頭皮用ローションは消化器がん患者における回復期の毛質を改善する可能性も示している。

基礎研究と臨床から得られる結果を考察しながら、繰り返す基礎・臨床研究のサイクルにより、抗がん剤脱毛研究の持続的な成長を期待している。今後も $\alpha$ リポ酸誘導体を用いた効果的な治療開発を検討し、がん患者のQOL向上の取り組みを継続する。

### 略歴等

#### 【略歴】

2001年 3月 大分医科大学医学部卒業  
2001年 5月 大分医科大学外科第一(研修医)  
2007年 5月 大分大学医学部 消化器・小児外科 医員  
2012年 3月 大分大学医学部 博士課程 修了  
2016年 4月 豊後大野市民病院 外科部長  
2017年-2022年 6月 大分大学医学部 消化器・小児外科  
高度救命救急センター 助教  
2018年-2019年 8月 米国Weill Cornell Medicine  
Visiting Fellow

2022年 7月 大分大学医学部  
先端がん毛髪医療開発講座[アデランス] 准教授

#### 【主な学会活動】

日本外科学会 専門医・指導医  
日本消化器外科学会 専門医・指導医  
日本消化器内視鏡学会 専門医  
日本内視鏡外科学会 技術認定医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

### MEMO

---

---

---

---



演者②

東京女子医科大学  
外科学講座  
乳腺外科学分野 教授・基幹分野長

明石 定子先生

## 乳癌治療と脱毛対策

乳癌周術期治療のキードラッグであるアンスラサイクリン系薬剤は脱毛が高頻度であり、通常かつらの着用は必発である。これまでは化学療法に伴う脱毛は仕方ないものとして軽視されてきたが、患者視点でみると化学療法時の最も大きな苦痛要因となっている。「命よりも髪の毛が大事」を口癖に、添付文書上の脱毛の頻度は35%とそれほど脱毛は多くないと医療者が考えていたADC薬で、生存率延長効果も示していた薬剤さえ拒否した若い女性患者も経験した。また脱毛は一時的で、化学療法が終了すればまた生えてくると一般的には認識されているが、頭頂部および前髪が伸びず部分用ウィッグが生涯手放せない患者も時折経験し、対策の必要性を実感する。

現在当院では頭皮冷却による脱毛対策の併用が可能であるが、頭皮冷却を行っても脱毛が完全に予防できるわけではなくウィッグが必要となる場合が半数程度あり、冷却に伴う有害事象、1日に対応できる患者数の制限、看護師の手間と時間を取り外来化学療法室の滞在時間が長くなることなど、実際の使用にはいくつかの問題点がある。メデイαと頭皮冷却との組み合わせへの期待、脱毛程度の違いから薬剤による脱毛対策の今後の展望について考察したい。

### 略歴等

#### 【略歴】

1990年 3月 東京大学医学部医学科卒業  
1990年 6月 東京大学医学部付属病院第3外科入局  
1992年 6月 国立がんセンター中央病院 外科レジデント  
1995年 6月 国立がんセンター中央病院  
乳腺外科がん専門修練医  
1996年 4月 国立がん研究センター中央病院勤務  
乳腺科医員  
2008年10月 同16A病棟医長  
東京大学医学部非常勤講師(兼任)  
2011年 10月 昭和大学医学部外科学講座乳腺外科学部門  
准教授  
2019年 7月 同 教授  
2022年 9月 東京女子医科大学 外科学講座  
乳腺外科学分野 教授・基幹分野長

#### 【主な役職】

文部科学省 専門委員会専門委員  
日本乳癌学会 理事、評議員、働き方検討委員会委員長、  
チーム医療推進委員会委員長、財務副委員長、  
将来検討委員会委員

日本乳腺甲状腺超音波医学会 副理事長、事務局長、  
第40回学術集会会長、学術委員会委員、  
FUSION02研究部会長、編集委員会委員  
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 理事、  
評議員、財務委員長、広報・企画調査委員会副委員長、  
あり方委員会、合併症長期フォローアップ小委員会  
日本乳がん検診精度管理中央機構 理事  
日本外科学会、指導医、ダイバーシティ推進委員、保険診療委員  
日本臨床外科学会 評議員、編集委員、国内手術研修委員  
日本癌治療学会 ガイドライン作成・改訂委員会委員  
JOHBOC COI委員  
日本超音波医学会 国際交流委員会委員  
日本人間ドック学会 女性の間人ドック検診の在り方に関する  
委員会委員  
日本女性外科医会 世話人  
JMA Journal 編集委員(乳腺分野)  
WFUMB2025 Local Organizing Committee  
特定非営利活動法人 日本女性技術者科学者ネットワーク監事  
【受賞歴】  
1999年 第5回日本乳癌学会研究奨励賞  
2019年 国際ソロブチミスト日本財団 千嘉代子賞

Aderans

